

びめい(微明)とは

引き締めようと思うなら、しばらく  
拡張させておくに限る。弱めようと思  
うなら、しばらく与えておくに限る。  
この道理を知る事を「微明」という。  
柔弱は剛強に勝つものである。  
(老子より)



# 微明

発行日 平成3年4月1日  
編集 銚田町商工会青年部  
広報委員会  
発行者 銚田町商工会青年部  
部長 鬼沢保平  
〒311-15 銚田町大字銚田2476番地  
TEL.0291 2-2246



### 目次

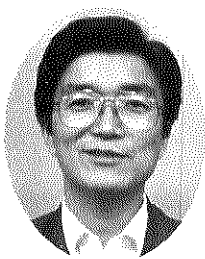
- ・第2回ほこた凧揚げ大会…………… 2 P
- ・ほこたフェスティバル'90…………… 3 P
- ・活動報告…………… 4 P～5 P
- ・青年部フォーラム…………… 6 P
- ・県青連主張発表…………… 7 P
- ・青年部員名簿…………… 8 P

10/21「ほこたフェスティバル'90」より  
上段/チビッコ綱引き大会  
中段/豚レース  
下段/自転車遅乗りレース

### 部長あいさつ

## 「微明」発刊にあたりこの一年を振り返る

青年部部长 鬼沢保平



青年部部长として、残された任期を前にこの一年間を振り返ってみると、時のたつのが早かった、というのが実感です。

「ほこたフェスティバル'90」第二回ほこた凧揚げ大会も天候に恵まれ成功のうちに終えることができました。

また二月に行なわれた茨城県商工青年の主張発表会において、松本茂雄君が三位入賞したことも、当青年部にとって荣誉あることであり、私自身にとっても良い思い出になると思います。

私は、部長として四年間、

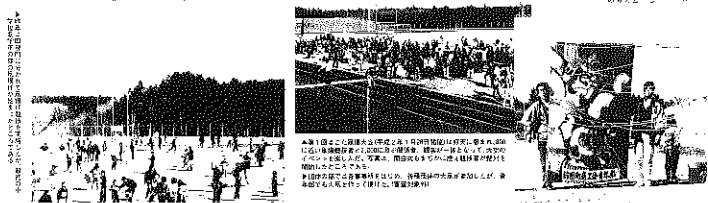


# 祝・第2回ほこた凧揚げ大会

「風を飛ばそう大空へ」  
遺産の伝承と明日への飛翔

1991.2.3日 午前9時開始  
8:30受付(雨天の場合は2月10日)  
会場 / 銚田町総合運動公園

中継放送は本誌の特集記事として  
「ほこた凧」の特集記事として  
「ほこた凧」の特集記事として



大会は、この町を代表する伝統行事として、毎年2月に開催される。この大会は、地域の文化を継承し、子供たちに凧揚げの楽しさを伝えることを目的としている。また、家族で楽しむ機会を提供し、地域の絆を深めることに貢献している。大会には、多くの観客が参加し、賑やかな雰囲気が漂っている。

主催：銚田町商工会青年部・銚田町商工会 共催：常陸風の会・銚田町子ども会育成会

2月1日付「茨城新聞」に掲載した広告(2/3段めき)

## 第2回ほこた凧揚げ大会

# 手作り凧で家族のふれあい

— イベントとして定着 —

町の活性化と、町おこしの一助にと始めた今大会も二回目。大会には、九百五十人が参加。今回も、常陸風の会「下記説明」、町子ども会育成連合会(東野義則会長)、銚田町連合青年団、町内事業所などに、全面的協力をいただき町民参加のイベントとして定着してきました。

## 大空に舞う千個の凧

— 新聞・ラジオによるPR作戦実る —

銚田町商工会青年部の一大事業のひとつとして、昨年に続き行なわれた「ほこた凧揚げ大会」は、一月三日、銚田総合運動公園に於て行なわれ、約千個の凧が大空に、舞い上がりました。

快晴のうえ、風もまあまあの凧揚げには絶好のコンディション。開会式で、大会会長である鬼沢部長が、「家庭での親子の対話と伝統的な遊びの見直し」をテーマに、大会の意義を述べた。

## 新聞・ラジオなどマスコミを積極的に活用

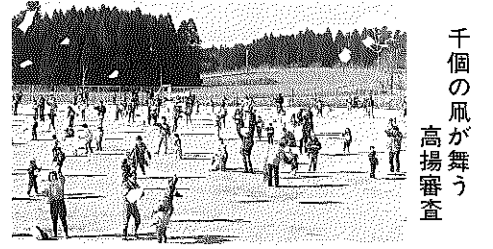
また今回、青年部は前回と同じ様に、新聞の折り込み広告、ポスターの作成によるPRの他に、「茨城新聞」の紙面(三分の二段使用)に大広告を入れました。その他ラジオにも出演するなど事前PRに大変、力を入れ、参加者集めに大きな成果を上げました。成績は次の通り(敬称略)。

- ◎ちびっ子の部
  - ▼優勝(銚田町長賞) 高橋理恵
  - ▼準優勝(銚田町教育町賞) 高橋 茜
  - ▼第三位(銚田町警察署長賞) 高柳雄一
- ◎少年の部
  - ▼優勝(茨城新聞社長賞) 富田昌子
  - ▼準優勝(銚田町教育長賞) 大信克男
  - ▼第三位(鹿島北部消防署長賞) 大川拓也
- ◎成人の部
  - ▼優勝(銚田町長賞) 藤 昭
  - ▼準優勝(銚田町商工会長賞) 藤沼勝次
  - ▼第三位(銚田ロータリー会長賞) 福井喜代志



大好評のとん汁サービス(婦人部)

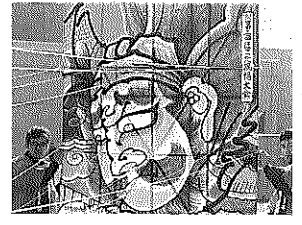
しを行ない、温かい環境をつくりだすことを希望します」とあいさつ。続いて、小室光町長、大会関係者のあいさつの後、さっそく競技開始。競技は、まず地上審査によって、凧の絵の出来ばえなどが競われ、続いての高揚審査で実際に上がった凧を審査するという順に行なわれました。参加者達は、自作の手作り凧を一心に大空に揚げていました。約千個の凧が乱舞する様に、見物客から大きな歓声と拍手があがっていました。



千個の凧が舞う 高揚審査



地上審査で→ 絵の出来ばえをみる



←審査対象外の青年部の手作り大凧

## 常陸風の会



石山先生

前回も全面的な協力をいただいた。例えば、常陸八ツ凧などです。現在、銚田支部としては15名の会員で活動しているのですが、「ほこた凧揚げ大会」を契機に入部希望者が急増しているそうです。

★対外的には、凧作り、凧揚げの指導、各種凧揚げ大会の運営の援助をしています。参加大会としては、大洗、笠間、岩瀬、水戸、その他に県主催の大会(例えば青年自然の家の大会)です。内部的には、会員の研修として、①凧絵の研修、②各種凧作り、③凧揚げの技術研修、④凧の会としての



常陸風の会

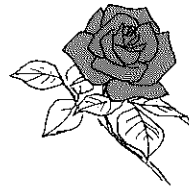
# ほこたフェスティバル'90

## 消費者との対話と交流を

青年部のメインイベント「ほこたフェスティバル」。今年度は10月21日、本町通りに於いて行なわれ、三万人近い家族連れで、にぎわいました。商業者として、消費者へ利益を還元することにより町を活性化することを目的に、青年部が主催運営する「ほこたフェスティバル」は、「青年祭」の時代から数え、十年以上が過ぎ、町のイベントとして完全に定着してきました。

今回も、町、銚田警察署、青年団はじめ各種団体の全面的な協力のもと、さまざまな催しが繰り広げられました。

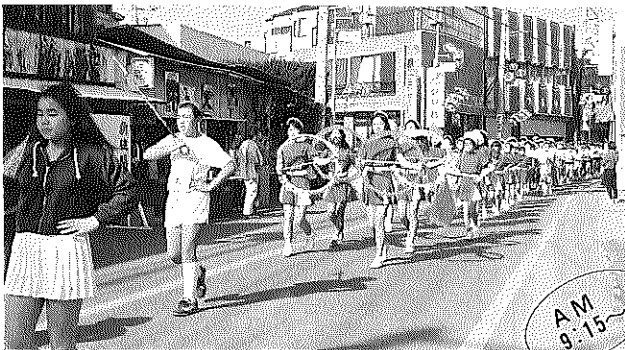
綱引き、もちつき大会、ファアーなど、お馴染みの催事の他に、今回は、豚レース、卵投げ、自動車運乗りレース、ミニ動物園などを加え、大変好評でした。また、町の消費生活展や婦人部のチャリティバザー、菓のなんでも相談なども行なわれました。



ファアーファアー いつも子供達の人気者

## 歩行者天国に3万人の人出！

パレード 銚田小マーチングバンド、銚田二高バントワラー、そして、県警の白バイを先頭に「交通安全」を呼びかけた。



AM 9:15~



AM 9:00~

テープカット (右より小島良一商工副会長、埴尾町長、檜山栄署長)

チャリティバザー 交通遺児のためのバザーも盛況



AM 10:00~

## 青年部の一番忙しい一日



AM 9:30~

ミニ四駆 メーカーの全面的な協力で賞品も豪華

ほこた音頭 歩行者天国いっぱい広がっての踊りは、はなやか。



12:00



PM 1:00

卵投げ

投げ手と受け手との息が合わないと、うまくいかない。



ミニ動物園

子供達に大好評！

青年部活動報告

4/21 平成二年度 通常総会開催

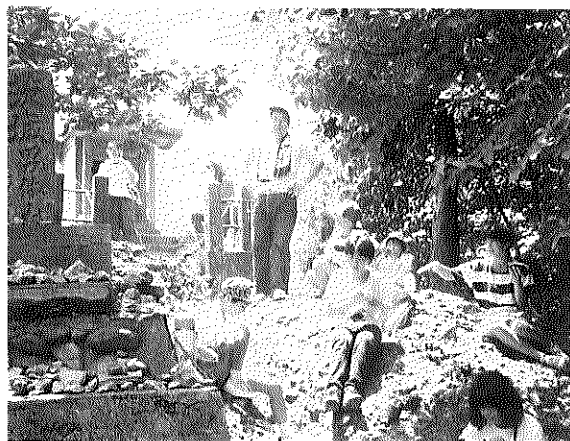
平成二年度通常総会は、平成二年四月二十一日(土)夜七時より磯一において開催されました。平成元年度事業報告、同会計収支決算書並びに二年度事業計画などが無事承認されました。また、総会に先立ち元年度卒業の山崎英策元部長に賞状、記念品が授与されました。



6/17 家族ハイキングに参加して

自然の恵みの素晴らしさや 大切さを身を持って体験

6月17日、家族揃って、奥久慈男体山ハイキングに、参加しました。梅雨時には珍しく、真夏を思わせるような晴天に恵まれ、気持ち良い汗を流した一日でした。始めは、なだらかな道を子供達と共に、草花を眺めたり木イチゴを摘んだりしながら、のんびりと歩いて行きました。途中で一度、休憩をとり、さあ、い



一 険しい県大会への道

延長戦の未惜敗 前年の雪辱ならす

今年ユニフォームを一新してやる気満々の我が商工会青年部の野球部が、またもライバル神栖町商工会青年部と二回戦で当たり延長戦の末に惜敗した。

試合は初回先行の神栖が一点を取れば、その裏トップバッターの荒野がツーベース。二番三番と

凡打に終わったが四番鬼沢慶がレフト前にはじかえしすぐ同点に迫っていく。そして三回にも神栖に一点を取られ先行されるが、その裏一打席目にツーベースを打っている荒野がセンターオーバーのツーベースをはなち二番久保田(豊)がレフトオーバーのツーベースを打って同点、さらに三番岡里のショートゴロの間にランナーがサードに進み四番鬼沢慶

のライト犠牲フライで逆転をした。四回に一点を取られ同点にされたがゲームは我が青年部が押せ押せムードでゲームの流れは完全に我が青年部の方にあった。



その後、何回かチャンスがあったのだが自分達のミスと相手のピッチャーの野口に押さえられ得点できずに投手戦となった。五回まで好投していた小沼に変わり鬼沢慶がマウンドに上がり3対3のまま延長戦となった。

延長八回表にこれまで無得点に押さえていた鬼沢慶がツーアウトを取ったものの内野安打と二つのフォアボールで満塁になり次のバッターにもフォアボールを出して押出し、次のバッターには左中間にツーベースを打たれ三点を失った。その裏、我が青年部はワンナウトから四番鬼沢慶がヒットを打ったもののあとが続かず野口投手に押さえられてしまった。

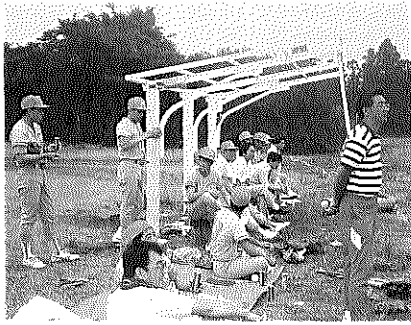
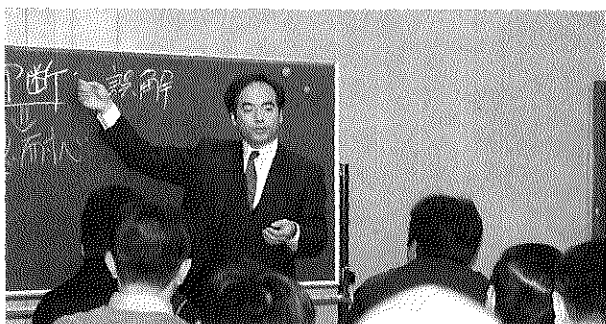


敗れはしたものの我が青年部は確実に力をつけレベルも相当上がってきた。来年こそは神栖に勝つことを胸に、大会を終了したのであった。皆さん本当にご協力ありがとうございました。

2/14 ミニ講演会

講師 越 邦晴氏

「楽しく働くための人間関係の作り方」と題して、従業員の接し方、接客のより良い仕方、対話、あるいは会話のイニシアチブの取り方、又は話すときのマナー、すべきこと、してはならないこと等を、和気藹々の内にお話しになりました。越先生は例会後の親睦にも、銚田泊りの気安さからか、御参加下さり、零時ちかくまで、私たちと話しに花を咲かせていました。この講演会は参加者が多く、なかなか好評でした。



決勝 神栖：玉造 (玉造棄権)  
優勝 神栖町商工会青年部

Score table for the baseball game. Columns: 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 計 (Total). Rows: 神栖 (Kamishira), 銚田 (Saitama).

年間行事

- 4 / 2 第1回ほこたさくらまつり協力
- 4 / 21 平成2年度通常総会
- 5 / 18 親睦野球大会(対北浦村商工会青年部)
- 5 / 26 親睦野球大会(対常陸太田市商工会青年部)
- 6 / 12 第22回鹿行地区商工青年部野球大会
- 6 / 17 青年部親睦ハイキング(奥久慈男体山)
- 7 / 3 五町村ソフトボール大会
- 7 / 4 鹿行地区商工会青年部ゴルフ大会(優勝)
- 8 / 8 若手経営者セミナー(水戸)参加
- 8 / 15 銚田町連合青年団「砂彫刻祭」協力
- 9 / 4 第7回茨城県商工会青年部ゴルフ大会(3位)
- 9 / 5 親睦野球大会(対潮来税務署)
- 9 / 30 茨城わくわくフェスティバル90
- 10 / 21 ほこたさくらまつり協力
- 11 / 7 畜産まつり協力
- 11 / 11 歌謡ショー協力
- 11 / 19 講演会(弁護士 眞話 鈴木俊美)
- 1 / 17 18 浅草商店街祝賀会 親睦旅行(石和)
- 2 / 3 第22回茨城県商工会青年部主張発表会
- 2 / 12 (松本茂雄君3位) 当をめぐり
- 2 / 14 講演会(活力ある働き者) めめぎ(関係の作り方)
- 2 / 17 18 スキパスア一(山の形) 嶺(嶺)
- 3 / 4 講演会(活力ある働き者) めめぎ(関係の作り方)
- 3 / 31 第2回ほこたさくらまつり協力

歳月



青年部副部長 菊地美博

商工会青年部へ入部して十一年の歳月が経りました。その間、色々な先輩や、年下の人達と知り合いになり、且つ様々な体験をし、大変有意義でした。行事等で思い出に残るのは、潮来で開催された、第二回、第三回の水郷潮来水の祭典です。第二回は当青年部有志で造った「水郷丸」にて参加しまし

た。いかに大きな水車をつけ、もんべ姿にて出場、第三回には、水車と桃太郎扮する大和田君をメンバーとするチームで参加、勿論私は鬼(皆なかなかの変身ぶりであった)に変装して優勝を目指したが、結果は優勝は出来なかったものの、企画賞を得る事が出来ました。講演会・講習会では、野村克也氏、養田実氏が印象深い。町民駅伝大会参加も思い出深い。軟式野球大会では、バッターボックスに立つまでの思いは二塁打、三塁打はたまたま走者一掃のホームランなのだが、現実には、三振がピッチャーゴロ、下手な野球だったが面白かった。

今年度は、畜産まつり、茨城ワクワクキャンペーンの協力、ほこたさフェスティバル、第二回ほこたさ鳳揚大会、商工青年の主張発表等多忙且つ充実した一年でした。私と同じように、青年部で活躍しているメンバーも、活動を通じて多くの友達を作り有意義な体験をつんで来たと思います。青年部に入っていないけれど、こんな充実した時を過ごすことは出来なかつたのではないのでしょうか。まだ、青年部に入っておられない方、私達といっしょに活動してみませんか。

先輩から後輩へ



青年部副部長 土子勇一

私は、高校を卒業して家業である酒屋をなんの抵抗もなく継ぎましたが、四、五年も過ぎるころ、このままでの経営で良いのか疑問を持つようになりました。もっと合理的な経営と、店を大きくした

私達親睦委員会は、「部員間の親睦を深める」という目標で一年間頑張ってきました。五月、六月は銚田町連合青年団・旭村・北浦村・常陸太田市各商工会青年部、また、潮来税務署との親睦野球大会を行い多くの部員に参加して頂きました。常陸太田市商工会青年部とは、二年越しの親睦野球という事で、野球終了後の懇親会ではメンバー同志の自己紹介などを行い楽しい一時を過ごす事が出来ました。又潮来税務署とは、毎年恒例の野球大会であり、懇親会では、署長さんより「来年度は野球ではなく、バレーボールで試合を行います」との事でしたので来年度の親睦委員長になられる方は、よろしくお願ひしたいと思ひます。

親睦委員会

委員長 小沼 保夫

いと思うようになり友達にでも相談してみるかと回りを見回したら商売をしている友達はいない。そんな時、商工会から青年部の広報が配布され、若い商売人の集まりがあることを知り、この内容なら、思い切って入部しました。入部した当時は例会を始め行事など黙って参加しているだけでしたが、ある日の忘年会の時、青年部の先輩が自分の前に座り「どうした景気の方は」と酒をつきながら私に聞くのです。先輩から酒をついで貰った上に、こんな席で商売の話

出来ました。講師には、部員の中から部長の鬼沢保平さん、副部长の荒野吉生さんをはじめ、鬼沢慶次君、川島利市君、小松崎光衛君に協力をお願いして無事に終了することが出来ました。ありがたうございました。十月の銚田フェスティバル90が無事終了し、十二月の忘年会を迎えました。場所は「大野屋」、四十数名という大勢の参加のもと、楽しく盛大に行なわれました。

教育研修委員会

委員長 渡辺 義信

今年度、当教育研修委員会では、講演会を二件とその他二、三の事業をおこないました。六月には、常陸太田商工会青年部有志の新たなカタログ販売の試みの話をうかがう事が出来現状、問題点、展望等について活発な質疑応答がおこなわれました。十一月の例会には、東京第二弁護士会の鈴木俊美先生を講師に講演会をおこない、弁護士とはどのような存在か、依頼するには、その費用は、などない、日頃弁護士に接する機会のない私たちに、基本的なことを解りやす

しになるなんて思いもしませんでしたので、正直驚きました。飲めない酒も進みましたが、お陰で商売の基本的な事を色々教えてもらった記憶があります。先輩も後輩も同じ立場で気軽に話しかけられるし、自分の為になる話が聞ける青年部の良いところを見付けました。それから、例会や行事でも積極的に参加する事に心がけたように思います。「生涯何事も勉強だ」と思っているうちに、私も人生の折り返し点に近付きました。どうか商売

地域振興委員会

委員長 川島 利市

私は何を書こうかと、迷っていたら二年前の事を思い出しました。私が地域振興の委員長になって間もない頃です。私は事務局の崎山さんに聞きました。私「地域振興は何をやれば良いんですか?」すると崎山さんは「地域住民に対し、事業者のPRはもとよりコミュニケーションを図るとともに、健全で住みやすい町づくりに貢献し、又、青年層を中心に、スキーバスやハイキングで若者の憩いの場を作り、友達づくりを始め、明日への町づくりを語り合える事を目的にして行なうんだよ」と、その時はそんな難しい事を言いました。一年を振り返ってみると、崎山さんが言った事の半分も実行にうつせなかつたと思います。ハイキング、スキーと参加者を募集すればなかなか定員に達せず、人数集めで息切れしてしまひ、参加した人たちが満足いく内容のものにはなかつたと思ひます。今回この委員会を担当してみても、本当に地域振興とは難しいことだと考えさせられました。

人として半人前になりましたが、今後とも宜しく御指導願ひます。私も微力ながら後輩達に一つでも教えることが出来るようがんばるつもりです。皆さん私達は銚田町の将来を背負う若者達です。今、活動している物は絶対後になつても役に立ちます。あなたも青年部活動に積極的に参加してみませんか。「先輩から後輩に、後輩から次の後輩達に」白慢出来る青年部活動にしていましよう。

# 「明日の商工会青年部を考える」

## — 青年部座談会より —

〈司会〉今日はお忙しい中、青年部座談会に出席していただきありがとうございます。「明日の商工会青年部を考える」というタイトルで座談会を開催してみました。皆様の忌憚のない意見をお話し下さい。それでは、まず初めに、今年一年間を振り返ってみて、感想なり、反省なりをお願いします。

〈A〉とにかくイベントが多く忙しかったという印象を持っています。青年部主体のイベントのみならず、親会や他団体のお手伝いなどよくこなしてきたなあと思います。

〈B〉私は青年部員が七十名ほどいるにもかかわらず、その参加が少なかつたと思います。

〈C〉結構忙しかつたけれども、楽しかったという感想です。たくさん仲間との交流やいろいろな団体との出会いなど私には良い経験となりました。

〈D〉私は青年部の本来のあり方である勉強や研修が少なかつたと思います。もう少し商売のことを考える機会があつても良かったと思います。

〈E〉私は部員間の親睦が図られ、うまく行ったと思います。

〈司会〉さきほどの意見の中で、

事業への参加が少なく、いつも同じメンバーばかりが汗を流しているという意見がありました。が、それでは、何故部員の参加が少なくないと思いませんか。

〈B〉私が特に感じたのは、若い部員の参加が少なかつたということです。きっと青年部活動の意義が理解できていないのか、もしくは、活動自体に魅力を感じていないのではないかと思います。

〈D〉私は人それぞれ青年部に加入した動機がまちまちだからではないかと思えます。中には野球ができるとか、いろんな勉強ができるとか、誰さんが誘ってくれたとかで、それぞれがその目的に合うことなら参加するけど、興味の無いことには参加しないのではないのでしょうか。

〈A〉ここにおもしろいデータがあります。これは茨城県商工会青年部連合会の実施したアンケートの中で商工会青年部に加入している人にもかかわらず、加入していない人へ、「あなたは何故商工会青年部に加入しないのですか」と問いかけたところ、「青年部自体を知らない」50%、「青年部に魅力を感じない」50%ということでした。あとの



50%、すなわち、魅力がないと思っている人に青年部とはこんなにはすばらしい組織なんだということを知らせることが、今いる部員の参加を促すのではないのでしょうか。

〈C〉私はこう思います。今の

動パターンだと思うのです。年代によって考え方が違うのですから、このあたりを理解して事業を考えるべきだと思います。

〈E〉私は若い人達が意外と先輩達に遠慮しているように見えます。自分よりも10歳も年が違ふとなかなか話も合わないし、その辺が参加をむずかしくしているのではないかと思います。

〈司会〉それでは最後に、これからの青年部活動をより魅力あるものとし、部員の積極的参加を促すにはどのようにしたら良いか、日頃考えていることをお話し下さい。

〈A〉なかなかむずかしい問題ですけれども、青年部の発展のためには部員同志の意見の交換が大切であると思えます。事業を通しての意見交換も大切ですが、もっと小さな単位個人と個人の対話を重要視すれば、理解が得られると思うのです。とくに、参加のほとんどない部員に対しては、個人的に話し合いを持つべきではないでしょうか。

〈D〉私は研修のことばかりで申し訳ありませんが、自分のためになることは他人のためにもなると思いますので、部員の中で何人かのグループを作り、テーマを決めて一年間勉強してみたらどうかと思います。最初からむずかしいテーマではなく、身近で簡単なことから勉強してみたら良いと思います。

〈E〉勉強会ももちろん大切で

あると思いますが、私はレクリエーションを通じて、部員の親睦を高めて行くことが大切であると考えます。そして、そのレクリエーションの企画を若い部員に考えてもらい、それに対して先輩達は一切文句を言わないで参加する。そうすれば、若い部員もやる気がでてくるし、そこで部員間の交流が図られると思います。

〈C〉私は一度部員全員にアンケートを取ってみてはどうかと思います。月例会にも出席しない、事業にも参加しないという人達が何を考えているのか、また、月例会に出席しても自分の意見をなかなか発言できない部員のためにも是非アンケートを取って、青年部のよりよい方向性を探ってみてはどうかと思います。

〈B〉私も皆さんと同じ考えでとにかく部員同志の会話が基本であると思います。そして、大きな単位ではむずかしいので、各委員会単位で話し合いをもてば、自分の意見が言えるのではないのでしょうか。そうすれば、事業の目的や意義をはっきり理解できて、みんなの参加が可能になると思います。

〈司会〉たくさんさんの貴重な意見ありがとうございます。今回の皆様の意見を執行部に提言し、来年度の事業に反映できるようにしたいと思います。長時間に渡り御協力ありがとうございました。

若い人達、そうですね、昭和40年以降生れの若い年代は、組織という枠にとらわれるのを好まないんじゃないかと思うのです。彼らは、団体で行動するよりも、自分達の気の合った数人で、好きなことを自由にするという行

### ナイスショット

副部長 荒野 吉生



「ゴルフ」私の今一番の楽しみであり、趣味である。

「カキーン」白球が空に舞い上がる。同伴者からあがる「ナイスショット」の声。今日は絶好調。しかし後が続かない。右や左の旦那様のごとく、あっちへ行ったり、こっちへ来たり。お次は地球と喧嘩することの大ダフリ。最後のトドメはグリーン上での30センチメートルのバットはずし。昨日の練習ではあんなに調子が良かったのに。やれやれ今日はいくつ叩くのか。夢の中と現実とは全然ちがう。山あり谷ありの連続であり、暗やみの中で見る一本の光のごとくまるで自分の人生。商売を通しての「苦あれば楽」を見ているようだ。

しかし、ゴルフは楽しい。一日中直径4センチメートル余のボールを追いかけて、走りまわるフェアウェイ。いやな事も忘れられるし、見知らぬ人達とも知り合いになれる。そして、諸先輩達とのなげない会話を通して商売のヒントが得られる。何回も聞かれない「ナイスショット」の声や、今度はパレーでまわってくる夢を思い浮かべながらゴルフを活力源として商売に励んでいる現在である。

第22回茨城県商工青年の主張発表会



第22回茨城県青年の主張発表会

我が青年部代表

松本茂雄君 第3位入賞

県商工労働部長賞 受賞
県商工会連合会長賞

「商工青年として私の訴えたいこと」をテーマに、県商工会連合会と県商工会青年部連合会が主催する「第二十二回茨城県商工青年の主張発表会」は、二月四日、水戸市県民文化センター小ホールで開かれ、鹿行プロックの代表として発表した。当青年部の松本茂雄君（広報委員長）が「青年部と私」という題目で出場。見事、第3位に入賞した。以下発表の要旨を掲載。

テーマ「青年部と私」
……前略

実は私も青年部で、広報を担当して今年で10年になります。

そこで私は、部員向けに月刊の会報を、商工会員向けに年刊の会報を作っていました。最近、ある会報作りの講習会に参加し、「君たちも、ジャーナリストとしての誇りを持ちなさい」と教えられ、私もその端くれかなあと思っています。今、海外では「戦争がはじまり」、国内では「本当の豊かさ」が問われています。そこでは、多くのジャーナリストたちが私達に情報を提供するため日々活動しています。時には命を賭ける彼らの心の拠所は、ジャーナリストとしての使命と誇りなのではないか。

ジャーナリストというには、あまりに小さな存在ですが、青年部の活動をカメラのファインダーを通して参加し、そして記事にしてみました。しかし、こうした私の広報活動も最初は、その仕事の多さに逃げだしたくなった事がたびたびでした。自分自身の取り組み方も原因ですが、うまくできず失敗の連続でした。もう一年も一年と、続けて来ましたが、皆さんの中にも、会報作成に携

わった方がおられるのでは、ないでしょうか。その仕事は、忍耐のいる情報集め、ワリツケを決めて、印刷、校正など根気のいる仕事です。

……中略……

将来きつと役に立つと自分に言い聞かせ、どうにか続けて来ましたが、3年前、とうとう年間の会報を出さずに終わってしまったのでした。

これは、一年間の広報活動が無になることを意味します。部長からはどやされるし、途中で記事を書いてくれた部員には恨まれる。参々あやまり通しました。

私は、ここで反省の日々を送りながら考えました。完成途中で放り出した私の責任は、免れるものではない、ありません。しかし青年部にも問題があるのではないかと。それは、若い部員の参加が積極的でないという青年部自体の問題が結果の広報の人手不足を呼び、イベントに於いてはマンネリを生む一つの原因になっているのではないかと考えました。部員のうち本当に活動に参加するのは半数もいないという現状が、私自身の青年部に対する大きな疑問になっていたのです。

もちろん、例えば県道を一日歩行者天国にする「ほこたフェステイバル」のイベントは、一ヶ月も前から毎晩のように集まって準備するやりがいのある物で、終わった時には私自身その満足感に感動します。しかし広報作業でその写真を見ると、毎度おなじみの顔しか写っていないのです。これがイベントをマンネリ化し、新しい展開を生まない原因になっていると思えました。そして私が出した結論は、「青年部活動自体の意義を、私自身に納得させ、それを若い部員に聞いてもらう必要がある」というものでした。

それが、青年の活性化になるのではないかと思ったのです。活性化とは、意見のぶつかり合いです。これがないと達成できないのです。そして、それを広報でやらなければと思えました。

ある時、新聞である座談会の記事を見つけた。それは、「何かやる時に、自分が一生懸命やると、やっけないやつが見え

てくる。するとやっけないやつを責め始める。俺がこれだけやってるのに、おまえやっけないじゃやっけないかって。だんだんきくしくしくして、組織が崩壊するのをしよつちゅう見る。

働きアリの、よく調べて見ると、働いているのは20%、あとの80%は働いてるふりをしているだけだ。そこで働かないアリだけを集めて見ると20%が働く。これは、教訓的なことだ。やる人は頑張るのが楽しくてやるのだ。黙々とやっていると、必ず人は見ていて、それに憧れる人が出てくる。一生懸命やるのは、自分の為だということ、それは20%なんだということ、を思えば、うまくいかないことも、うまくいく。

青年部活動に参加して



役員産業課 櫻井正和

私が商工会青年部に加入して、早いものでもう一年が過ぎようとしている。昨年四月に税務課より産業課へ異動となり、商工係担当というところが縁で青年部に。部員の皆さんの歓迎や激励、また、活動しながら気軽に話せるようになり、当初の不安や戸惑いをぬぐい去ることができた。

ら、私に話しかけて来た時は、うれしかった。

この送り手と受け手とのキャッチボールが広報の活性化であり、広報による青年部の活性化こそ、私の広報活動の使命であると確信したのである。

今、地域の商工業は大きな転換期を迎えています。そこで働く我若し商工業者は、自分たちが何をすべきか、その行動を問われています。

それには、まず私たち一人一人が人との関わりの中で自己を確立し、自分自身の足元を確かめなくては、なりません。青年部という組織は、人と人との出会いによって成り立っています。私自身の青年部の広報活動の目的は、仲間とのふれ合いを高め、自分自身を見つめなおすことに他なりません。これからも、青年部に多くのボールを投げつけ、多くのボールを受けとりたいと思います。

さて、私がこの青年部で教えられたことは、「自分たちが力を合わせれば何でも出来る」ということです。なかでも、最も印象に残っているのは、ほこたフェスティバルで、深夜の準備に始まり、バラエティ豊かでユニークなイベント企画、そして充実感と疲労感の反省会と、部員各々が力を出し合い、行事を成功させるという大変素晴らしいことを体験できた。

このような体験を通して、私が最近感じていることは、昼間の商店街は狭く感じるが、夜（八時以降）は大へん広く感じる。というのは、やはり路上駐車が多い。これは、銚田だけにいえることでは

ない。少し前に、トレンディ。という言葉をよく耳にしたが、今の消費者は、軒先まで車で行く人がほとんどだろう。昔より車の数は増えているが、道路や駐車場は変わらない。

銚田の主要産業は農業であるが、これから商工業が発展していくためには、消費者のニーズにこたえるにはどうしたらよいか、改めて深く追求すべきだと思います。

最後に、商工会という組織を核に五年いや十年先を見こした商店街をつくることを、これからの私たちの活動に組み込んでいけば、実りある青年部活動になるのでは……。

### インタビュー① 「明るい笑顔で」

商工会事務局 皆藤 洋子

「商工会に於いて行なっている仕事の内容をお知して下さい。」

「私の職名は、記帳専任職員と言つて、青色申告者の税務指導青色申告を始めて一年から三年程度の方の帳簿の記帳から決算まで一貫した継続指導」を行なっています。青色申告とは、毎日の取引を正確に記帳し所得を計算して申告をし納税することです。青色申告を申請した人は税金の面でいろいろ有利な特典があります。ですから、毎日の記帳は節税につながり大切な事です。また、記帳機械化の推進も行なっています。現在、まだ20件程度なので、さらに増したいと思えます。」

「その他には」



「年三回、銚田一高で行なわれる全国商工会球算検定事業。また重藤指導員の下で労働保険の事務委託を受け持っています。労働者を一人でも雇用する事業主は、加入が義務付けられております。労働保険について事業主が処理しないことは、事務関係の仕事ですが、商工会には、たくさんのお客様がいらつしやいますので、明るい笑顔で接する様に心掛けています。一方的にこちら側から言ったり、見下ろす様な接し方をしない様にしています。」

### インタビュー② 「もつと」

今年度で青年部を引退する石崎千明さんに、青年部について聞きました。

「青年部を引退するにあたって思う事は、

「我々の時に、青年部の改革があった。その時から自分たちの活動の基本として、部費を徴収すること、月例会を開くことなどをきめた。青年部を自分達で育てたという思いがある。だから自分的一部が無くなる様な感じがする。また改革に関しては、やり方はその時は、その時で良かったと思うが、

これは、皆さん御存知の中元大売出し、歳末大売出し、歌謡ショー！美化運動等に関する事です。」

「たたくさんの仕事があつて忙しいでしょうが仕事で心掛けていることは

「事務関係の仕事ですが、商工会には、たくさんのお客様がいらつしやいますので、明るい笑顔で接する様に心掛けています。一方的にこちら側から言ったり、見下ろす様な接し方をしない様にしています。」

「最後に商工会員の方に言いたいことは、

「年に数回必ず、会員の皆さんの所に領収書や印刷物を持って伺っています。でも時間が無いのでなかなかお話ができません。商工会にも気軽に、いらつしやうて下さい。」

「客が有利な商売が基本であると思う。しかし理想は、自分が中心になり、家族、従業員を含めて、自分達が良くなることであると思

「部員一人一人は、おのおの分野でスペシャリストであり、青年部は、その集まりなのだから、お互い活用し合う必要があると思

石崎千明(いしざき ちあき) 昭和25年1月1日生、洋食ときわを経営するかたわら、仲間三人で共同経営する「パリアツチみき」(串挽)の仕事が多忙な日々

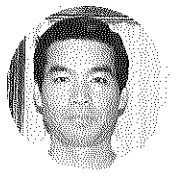
## 銚田町商工会青年部名簿 (H3.4.1現在)

| 番号 | 氏名    | 業種     | 番号 | 氏名    | 業種    |
|----|-------|--------|----|-------|-------|
| 39 | 青木 洋治 | 美容業    | 77 | 鈴木 秀明 | 美容業   |
| 38 | 青野 正男 | 縫製業    | 76 | 須藤 修  | 陶器    |
| 37 | 阿久津慎一 | 土木建設   | 75 | 高野 正明 | 旅行    |
| 36 | 荒野 圭一 | ガラス    | 74 | 田口 裕之 | 造花    |
| 35 | 荒野 吉生 | 肥料商    | 73 | 田崎 重司 | 建設    |
| 34 | 石上 守  | 時計商    | 72 | 大聖寺武夫 | 燃料    |
| 33 | 伊東 光一 | 金融業    | 71 | 土子 勇一 | 酒類商   |
| 32 | 市川 充男 | 造花     | 70 | 戸田 隆  | 飲食    |
| 31 | 上原 順一 | 木工業    | 69 | 土井 喜宏 | プレス加工 |
| 30 | 内田 輝雄 | 飲食用具   | 68 | 富田 稔  | 電気工   |
| 29 | 大原 史成 | 飲食業    | 67 | 飛田 浩弥 | 鮮魚    |
| 28 | 大平 兼史 | 飲食業    | 66 | 中根 一樹 | 金魚    |
| 27 | 大和 裕之 | 農機具    | 65 | 中根 康雄 | 菓子製造  |
| 26 | 岡里 剛治 | クリーニング | 64 | 中山 惣司 | 建設    |
| 25 | 小川 一彦 | 建築業    | 63 | 中山 芳和 | 建設    |
| 24 | 鬼沢 慶次 | 不動産    | 62 | 根本 芳光 | 電気工   |
| 23 | 鬼沢 正司 | 自修理    | 61 | 根本 将夫 | 写真商   |
| 22 | 鬼沢 保平 | 肥料商    | 60 | 橋本 佳之 | 食糧品   |
| 21 | 小沼 保夫 | 弱電工    | 59 | 木沢 徹  | ホテル   |
| 20 | 小野瀬正美 | 農機具    | 58 | 木沢 裕夫 | 燃料商   |
| 19 | 皆藤 和男 | 鮮魚商    | 57 | 真家 俊郎 | 金物商   |
| 18 | 加藤 博文 | 食料商    | 56 | 真家 吉市 | 自修理   |
| 17 | 加藤 佳男 | 金属材料   | 55 | 松本 茂雄 | 菓子商   |
| 16 | 川島 利市 | 金属材料   | 54 | 宮内 健寿 | 写真商   |
| 15 | 菊地 美博 | 金属材料   | 53 | 持丸 節男 | 燃料商   |
| 14 | 木村 貞夫 | 陶器商    | 52 | 矢口 恵司 | 建設    |
| 13 | 久保田利彦 | スポーツ用品 | 51 | 山口 公史 | 飲食    |
| 12 | 久保田 豊 | 石材業    | 50 | 山崎 浩  | 飼料    |
| 11 | 熊田 進  | 食料品    | 49 | 渡辺 彩希 | 鮮魚商   |
| 10 | 小久保 公 | 美容業    | 48 | 渡辺 定雄 | 鮮魚商   |
| 9  | 小林 克己 | 酒類商    | 47 | 渡辺 義信 | 書籍商   |
| 8  | 小松崎光衛 | ゴルフ    | 46 | 渡辺 憲治 | 事務局   |
| 7  | 小宮 一展 | 金融業    | 45 | 重藤 憲治 | 事務局   |
| 6  | 佐藤 雅広 | 金融業    | 44 | 高橋 直人 | 事務局   |
| 5  | 佐藤 越哉 | 電気業    | 43 | 山口 勝美 | 町担当   |
| 4  | 椎木 定夫 | 豆腐商    | 42 | 桜井 正和 | 町担当   |

本年度三名の方が引退されました



石崎 千明  
銚田町旭町「洋食ときわ」



鬼沢 好紀  
銚田町旭町「鬼沢そば店」



栗原 修  
銚田町七軒町「栗原牛乳店」

### 編集後記

今後の御活躍を！  
今回、紙面を横書きから縦書きに変えて編集してみました。出来ばえは、いかがでしょうか。情報化時代の中で常に新しいネタが求められている今、この年刊「微明」は、どうしても一年を反省する記録紙的な物になっていると思えます。それは、それで広報紙の役割なのではと思うが、今後の大きな課題として、内容の見直しも必要だろうと思います。情報をデリバリする者として、常に新鮮でより良い物を。(松本)